

## 1. 対象施設

### ➤対象施設及び経過年数分布、特性

構造物形式の駐輪場の躯体部分を対象とし、平成28年4月時点で65施設  
(路線式・平面式・高架下駐輪場の施設は事後保全型による維持管理のため対象外)

階層式駐輪場  
(37施設)

地下式駐輪場  
(17施設)

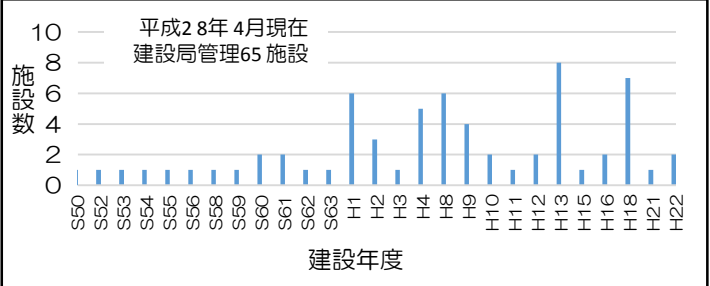
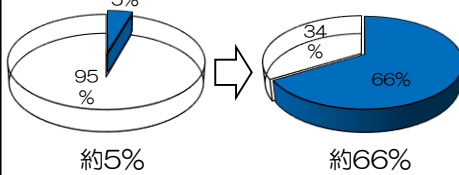
橋梁形式駐輪場  
(11施設)



### 耐用年数を経過する割合

H28.4現在

30年後



### 施設特性

- ①様々な構造形式の駐輪場
- ②鋼製構造物
- ③コンクリート構造物

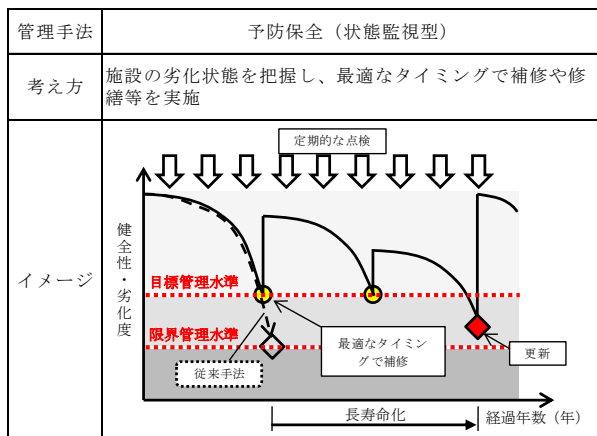
### 計画的な維持管理を行う上での留意事項

- 構造特性への対応 階層式・地下式・橋梁形式それぞれの特性にあわせた点検・補修
- 鋼部材の塗替え 腐食を防ぐための適切なサイクルで行う塗装塗替
- ひび割れ等の対策 劣化によるコンクリートの落下等への対策

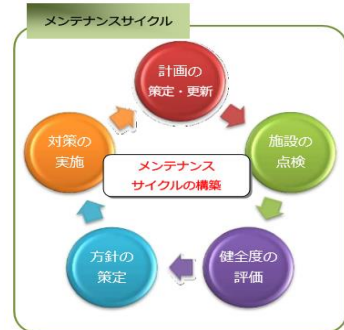
## 2. 維持管理方針

### ➤予防保全による長寿命化とLCC縮減

駐輪場の維持においては、損傷が大きくなってから補修する「事後保全」ではなく、点検により施設の状態を把握（監視）し、損傷が大きくなる前にこまめに補修する「予防保全型（状態監視型）」にて維持管理を行うことで、長寿命化を図るとともにライフサイクルコストを縮減していく。



### ➤実施方法

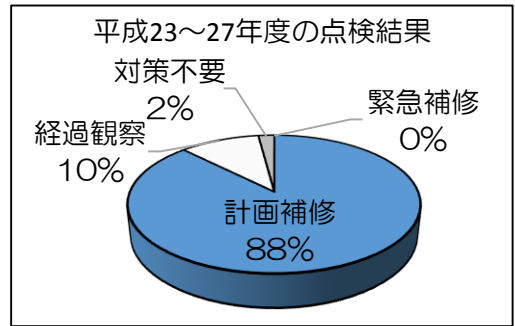


- 点検** 構造形式別に点検時期及び方法を定め、施設の状態を把握・分析
- 優先順位** 点検結果を基に、施設の劣化が今後どのように進んでいくのかを予測した上で、予算の平準化及びLCC最小となるよう優先順位を定めて対策を行う
- 対策** 点検結果等を基に、鋼部材の塗装塗替を計画的に実施  
大規模修繕の前に損傷部を早期段階で補修

### 3. 施設の状態

#### ➤施設の状態把握

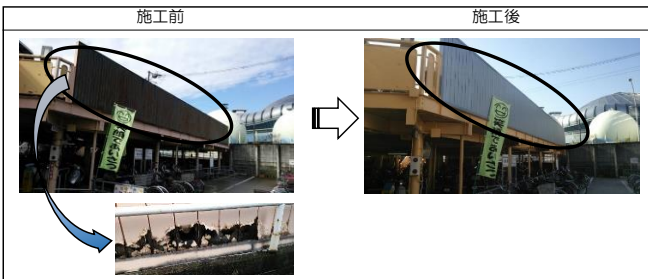
構造		点検時期	根拠
隠蔽式	単体構造	5年に1回	他都市調査及び道路法施行規則第4条の5の2（道路橋、横断歩道橋）に準じる
	特殊建物合築	3年に1回	建築基準法第12条第2項第4項
地下式	単体構造	5年に1回	他都市調査及び道路法施行規則第4条の5の2（シェッド、大型カルバート等）に準じる
	地下鉄合築	2年に1回 （10年に1回）	国土交通省告示第1786号「施設及び車両の定期検査に関する告示」
橋梁形式		5年に1回	道路法施行規則第4条の5の2



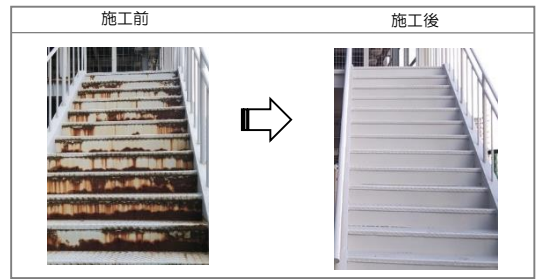
### 4. 対策内容と実施時期

#### ➤補修

##### 転落防止壁の取替



#### ➤塗装塗替

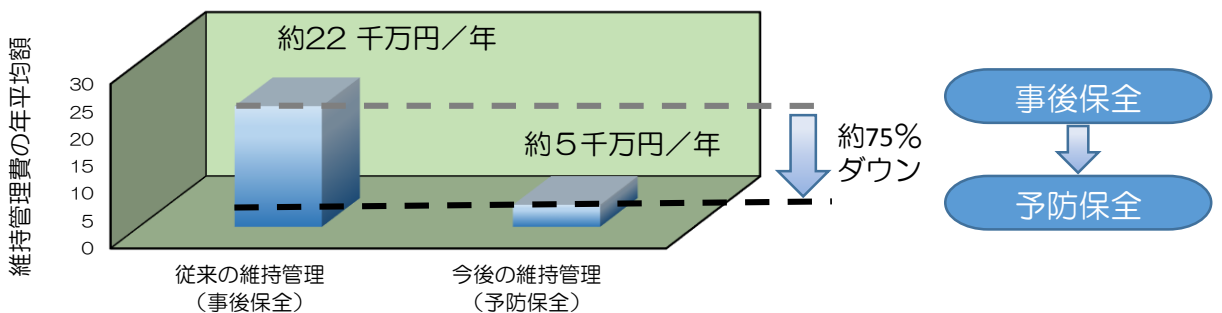


#### ➤実施期間 平成28年度～平成37年度（10年間）

	対策内容	対策時期									
		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
維持	点検	構造形式別の頻度により実施									
	補修	点検結果等に基づき実施									
	塗装塗替	点検結果等に基づき実施									

### 6. 対策費用（コスト効果）

#### LCCシミュレーション



※対象施設の維持管理に要する費用に限る。  
 ※本シミュレーションは、今後の社会状況により変更となる可能性がある。